

I-10

Walled city
中国近代集合住宅の研究
Walled city
About China Modern Collective Housing Study

○ 谷醒龍,佐藤信治

Seiryuu Koku Shinji Sato

Wall city About China Modern Collective Housing Study China's collection of residential, architectural form will change according to geographical environment In north the Collective Housing is Simple and Thick 。 Southern focus on family and security Under Difference north and south China Housing Development。 This project combines the cultural differences between the North and the South in China, and brings forward new conception of modern condominiums.。

1. はじめに

中国の地域により、住宅や建築などには非常に大きな違いがあり、特に北のほうと南のほうそれぞれに優れるところを持っている。北には黄土高原の洞窟住宅と北京の中亭住宅。どれでも内部の空間と外部の空間をうまくつながり、住民を自然と内部空間を両方楽しめる。しかしそれに対し南のほうはより安全性と家族性を大事にする住宅を作れていく。以上の中国集合住宅の優越性を踏まえて、現代の住宅機能を持つ新しい集合住宅の形を探っていきたいと思う。



Fig1. Hakka Residential

2. 計画背景

南の客家文明には；客家の人々は、周辺に住む他の集団とは異なり、山間部に好んで居住することが多く、独特の言語・文化を持っている。言語は古代の漢族語を今に伝えているといわれる。そのために歴史的に他の集団と軋轢を起こすことも多い。しかし、少数派であるがゆえに劣勢であるため、中央政権や王朝と良好な関係を保とうとする傾向がある。このような背景から、客家には漢人としての意識が比較的強いとも言われる。中国古代都市の東西・南北の都市軸で構成され、建築は都市軸に合わせて配置されている。住宅は軸線を持って真ん中から左右対称である。住民は100人から最大の600人までも存在する内部には塾や商店、病院までも完備された自立したミニ都市。風水の関係で、集合住宅の手前には水空間が存在する。そして閉鎖的な建築形式も求心性と方向性を再現する。そこで集合住宅のあらゆる可能性を現代的な集合住宅を試したいと思う

3. 敷地計画

今回の敷地としては北と南の文化を吸収した、そして有機的に融合された都市-上海。近代的な上海がイギリス人を占領されたから100年近くに貿易の港として使われている、その100年の間に上海の建築の形はすでに西洋化された。この建築たちを中国の文化の一部として保存したいとおもう。



Fig2. Shanghai map

日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering,CST,Nihon-U.

日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering,CST,Nihon-U.

日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering,CST,Nihon-U.

4. 建築計画



Fig3. Diagram

まずは隆昌アパートの開口を開けることによる、周りの環境をうまくつなぐたいと思う、周りには中学と大学があることで。隆昌アパートの内部にも中国近代建築の発信する教育施設であり。隣にあるデパートもつながり、経済的にも活用したいと思う。



Fig4. Outlet Diagram

今は隆昌アパートには廊下の空間には非常に混雑している、違法なキッチンやトイレを並び立てる、この現状を打破するために新しい空間を加えていくと思う。そして新しく加えた空間の中に様々な機能を与える、小さい空間でカフェや休憩場などより大きい空間を会議室や公園を作る。

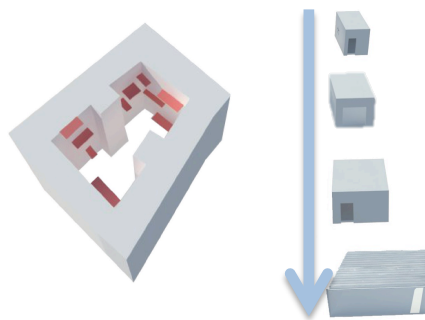


Fig5. Diagram New Slav Scale with new function

断面上には新しい階段と立体的公園をスラブの上に入る、ここで老人たちは一息休むことができる、高密度の住宅環境の中にもパブリックな空間も存在する、人に対する圧力を緩和することができる。

上海にはたくさんの江や海が町内に存在するから、だからこのアパートの中にも地域性を入れたいと思うから水環境を取り入れたいと思うアパートの中央広場に今現在に存在する自転車と車などを撤去する。アパートの両辺に新しい開口を開ける。アパート自体を元々1個しかない入り口閉鎖的な空間を外へのつながりがよくする。そして人工的に川を作ることによる、中央広場は昔つまらない駐車場から水場がある親水空間に成る。住民に休む空間や子供の遊ぶ空間になるも期待できる。

最後に日本の集合住宅の複合性が低いためにいま研究した中国の集合住宅の形を日本につなぐたい。両国の建築をもっと融合したい。



Fig6. Section Plan

日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering,CST,Nihon-U.

日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering,CST,Nihon-U.

日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering,CST,Nihon-U.